

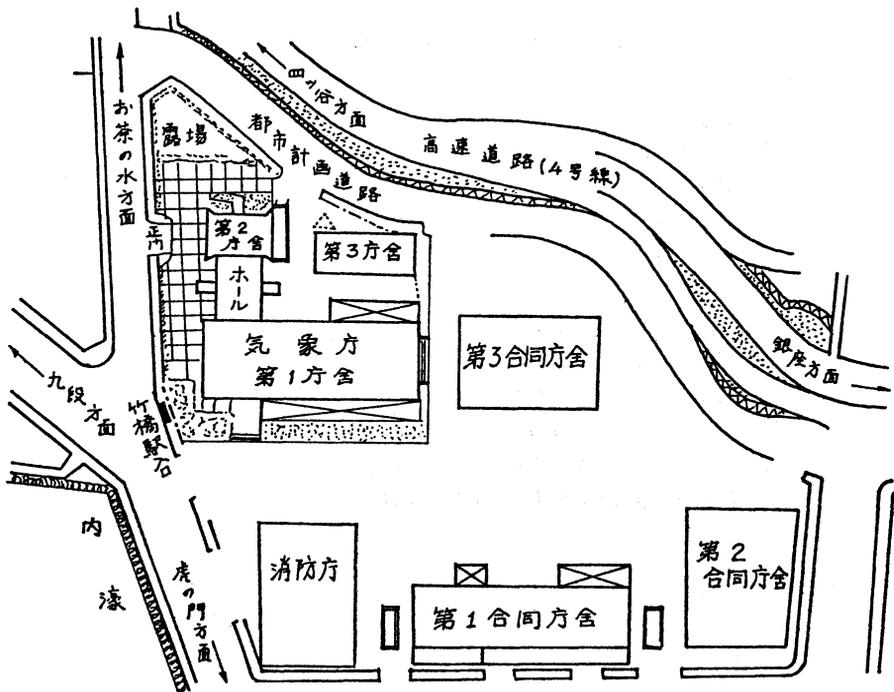
# 日本気象学会 昭和59年春季大会

会期：昭和59年5月23日（水），24日（木），25日（金）  
会場：気象庁（千代田区大手町 1-3-4）

## 目次

会場案内	203
大会行事予定表	204
総会次第	204
研究発表内容一覧表	205
シンポジウム内容	205
研究発表題目	206～213

会場案内図



(道順) 地下鉄東西線竹橋駅下車がもっとも便利です。

## 大会行事予定

1. 会場：気象庁（TEL. (03)-212-8341 Ext. 283）  
 第1会場（講堂，2階）  
 第2会場（東京管区気象台会議室，8階）  
 第3会場（総務部第一会議室，5階）
2. 会期：5月23日（水），24日（木），25日（金）
3. 行事

行事		
大会（研究発表）	（第1，第2，第3会場）	5月23日（水）09：00～12：00 13：00～17：00
大会（研究発表）	（第1，第2，第3会場）	5月24日（木）09：00～12：00
総会	（第1会場）	13：00～14：00
記念講演	（第1会場）	14：00～15：30
シンポジウム	（第1会場）	15：30～17：30
懇親会		
大会（研究発表）	（第1，第2，第3会場）	5月25日（金）09：00～12：00 13：00～17：00

## 総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 学会賞授与
5. 藤原賞授与
6. 山本賞授与
7. 気象学会賞受賞記念講演
8. 藤原賞受賞記念講演
9. 昭和58年度事業経過報告
10.     "     会計決算報告
11.     "     会計監査報告
12. 昭和59年度事業計画案・予算案の審議
13. その他

## 昭和59年春季大会

( ) 講演番号, — : 座長

		第 1 会 場	第 2 会 場	第 3 会 場
5月23日 (水)	09:00~ 12:00	総観規模現象 (101~109) —清水喜允— 熱帯気象 (110~114) —河野幹雄—	局地循環 (I) (201~213) —谷治正孝—	測器・観測 (301~309) —鯉沼正— 雲物理 (I) (310~312) —播磨屋敏生—
	13:00~ 17:00	中小規模現象 (115~132) —平沢正信—	局地循環 (II) (214~231) —光本茂記—	雲物理 (I) (313~317) —播磨屋敏生— 雲物理 (II) (318~330) —石坂 隆—
5月24日 (木)	09:00~ 12:00	気候 (133~146) —田宮兵衛—	局地循環 (III) (232~246) —藤部文昭—	大気化学・大気電気 (331~343) —小川利紘—
	13:00~ 14:00 14:00~ 15:30 15:30~ 17:30	総会 記念講演 シンポジウム	第1会場：2階	
5月25日 (金)	09:00~ 12:00	大循環 (147~160) —北出武夫—	エクマン境界層 (247~260) —真木太—	エーロゾル (344~357) —森田恭弘—
	13:00~ 17:00	力学 (161~174) —木村竜治— 応用気象 (175~180) —藤田敏夫—	接地境界層 (261~280) —水間満郎—	放射 (358~375) —嘉納宗靖—

注) 大会参加費 会員 1,000 円, 学生会員 500 円, 一般 1,500 円

## シンポジウム「小規模じょう乱について」

1. 日 時 大会第2日 (5月24日)
2. 会 場 第1会場 (講堂: 2階)
3. 座 長 斎藤直輔 (上智大学)
4. 話題提供者

山岸米二郎 (気象庁・予報部): ベリファインメッシュモデルの現状と問題点について  
 中井公太 (気象庁・観測部): アメダスの風を利用した降雨の実態の把握と予測  
 竹村行雄 (気象庁・予報部): レーダー, アメダスを用いた雨域の把握

## 講演発表者へのお知らせ

1. 東京大会では第1, 第2, 第3会場ともオーバーヘッド・プロジェクター使用可能です。
2. 講演時間は質疑を含めて12分程度です。スライド標準枚数は6~8枚です。
3. スライドのマウンドに番号をつけ, 上下を揃えて下さい。

## 研究発表題目

大会第1日(5月23日)09時00分~12時00分

## 第1会場 総観規模現象

座長 清水喜允

101. 高藪 出(東大・海洋研): 偏西風ジェットに伴う温帯低気圧での前線の形成機構
102. 加藤内蔵進(東大・海洋研): アジア・モンスーン域の夏への移行と中国大陸における梅雨前線帯の性格の変化
103. 加藤内蔵進(東大・海洋研): オホーツク海域における大気中の熱収支とオホーツク海から吹出す下層寒気の形成について
104. 二宮洗三・水野 量(仙台管区): 東北冷夏の総観的様相(Ⅱ)
105. 平松 親(北大・環境研): 札幌の天気を中心とした冬の天気図型分類—札幌開成高等学校自然科学研究会の試み—
106. 永田 雅・猪川元興・吉住禎夫(気研・予報): 日本海側の降雪の数値シミュレーションⅠ—降水集中帯とそれに対する地形・海陸分布の影響—
107. 古賀晴成・山岸米二郎・柏木啓一(気象庁・電計), 二宮洗三(仙台管区): 急激に発達した低気圧の数値シミュレーション—初期場の影響, 潜熱放出の効果と総観的構造の特徴—
108. 工藤達也(気象庁・電計): 局地モデルのノーマル・モード・イニシャリゼーション
109. 猪川元興(気研・予報): 客観解析スキームのフィルター特性(客観解析の理論的側面 Part 2)

## 熱帯気象

座長 河原幹雄

110. 小寺邦彦(気研・高物): 大規模積雲対流活動にともなう変動
111. 田中 実(気象庁・電計): 全球客観解析による1983年夏のアジア熱帯モンスーン循環
112. 新田 勅(東大・理): インド洋上空の波動擾乱のエネルギー収支
113. 元木敏博(衛星センター): GMS による上層風ベクトル場の長期変動
114. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報): 南方振動(SO)の周期について

## 第2会場 局地循環(Ⅰ)

座長 谷治正孝

201. 平松 親・菊地勝弘(北大・環境研): 札幌市の大気環境Ⅷ—音波レーダーの通年観測—
202. 栗田 進・里村雄彦・吉川友章(気研・応用): 2台のドップラレーダによる筑波山周辺のトレーサ観測Ⅰ
203. 井上君夫・陽捷行・岩崎 尚・内嶋善兵衛(農業環境技術研): 亜酸化窒素( $N_2O$ )の濃度分布・土壌面フラックス・揮散速度の測定
204. 岩谷祥美(日大・生産工): 広帯域連続スペクトルをもつ変動の MEM による解析
205. 小林博和・西宮 昌(電力中研): 主成分自己回帰モデルによる地表風系の客観予測(Ⅱ)
206. 近藤純正・三浦 章(東北大・理): 台風が西太平洋の熱収支に及ぼす気候学的影響
207. 近藤純正(東北大・理): 多種多様な地物が混在する現実的複雑地表面の熱収支
208. 近藤純正・萩野谷成徳(東北大・理), 森 洋介(宮城教育大): 複雑地形上の風と地形との関係
209. 大河内康正(八代高専), M. Segal(コロラド州立大学): 局地循環における土の湿り気の効果について
210. 遠峰菊郎(防大): 日高山脈周辺に形成される局所低圧部の数値解析
211. 木村富士男(気研・応用): 関東地方に夜間でできるうず(Harada うず)の数値シミュレーション
212. 大野木和敏・柴田清孝(気大): 移流霧の数値モデル(Ⅱ)
213. 柴田清孝・大野木和敏(気大): 移流霧の数値モデル(Ⅲ)

## 第3会場 測器・観測

座長 鯉沼正一

301. 柴田清孝(気大): 塩化リチウム露点計の動特性と誤差について
302. 石坂 隆(名大・水圏研): Lyman- $\alpha$  線吸収法による水蒸気量の絶対測定について
303. 内藤玄一(国立防災センター): マイクロ波散乱計の航空機搭載実験(Ⅲ)

304. MU レーダーワーキング グループ (京大・超高層) (代表 加藤 進): 動きだした MU レーダー
305. 赤井幸夫・小林博和・加藤央之・西宮 昌 (電力中研): ドップラー音波レーダによる風の長期連続観測—実用化のための実証試験結果—
306. 中村健治・猪股英行・阿波加純・岡本謙一 (電波研): 二周波レーダ観測に現われた降雨の Mie 散乱の影響
307. 中村健治・猪股英行・吉門 信 (電波研), 古津年章 (衛星機構): 二周波レーダによる融解層の観測
308. 中村健治・猪股英行・阿波加純・岡本謙一・高杉敏男 (電波研): 二周波レーダによる降雨の偏波特性の観測
309. 中村健治・阿波加純・猪股英行・篠塚 隆・増子治信 (電波研), 古津年章 (衛星機構): 降雨の多周波同時観測

## 雲物理 (I)

座長 播磨屋 敏 生

310. 山下 晃・三木 信次・森田 隆一 (大教大): 運動しながら成長する人工雪の結晶, その 2
311. 清 忠師・池田博文・権田武彦 (東理大・理 I):  $-15^{\circ}\text{C}$ , 気相から成長する氷の結晶の晶癖変化と成長機構
312. 五味秀樹・河村昌剛・権田武彦 (東理大・理工):  $-30^{\circ}\text{C}$  で成長する氷晶の晶癖変化と形態不安定性

## 大会第 1 日 (5 月 23 日) 13 時 00 分 ~ 17 時 00 分

## 第 1 会場 中小規模現象

座長 平 沢 正 信

115. 柳沢善次・青柳二郎・榊原均・松浦和夫・石原正仁 (気研): 2 台のドップラー観測による台風降雨帯内の運動場の解析
116. 深尾昌一郎 (京大・工), 佐藤 亨・津田敏隆・加藤 進 (京大・超高層), 若杉耕一郎 (京都工繊大・工芸), 廣田 勇 (京大・理): MU レーダーと 2 周波共用型降雨レーダーによる台風の多周波観測
117. 柿本 均・光田 寧 (京大・防災研): 気象衛星ひまわりの赤外輝度データで見た台風 (T. 8013) のライフ・サイクル
118. 相馬清二 (成蹊大): 富士山風下の乱気流について
119. 栗原和夫 (気象庁・電計): 非静力学・弾性系モデルによる二次元山岳波のシミュレーション
120. 相原正彦・岡村博文 (気研・台風): メソスケールモデルによる地形性じょう乱 (その II)
121. 吉野勝美 (全日本空輸 KK): 房総半島南端上空で遭遇した SEVERE CAT
122. 荒生公雄・金子圭一 (長崎大・教育): 梅雨期における西九州の豪雨
123. 土肥啓介・浅井富雄 (東大・海洋研): 北九州における 1982 年梅雨末期集中豪雨の解析
124. 杉山清春 (気象庁・電計): 重大な災害を生じるような強い降雨の原因

125. 平沢正信・牧 広篤 (気象庁・予報): 大規模予測場から積雲対流活動の推定
126. 大野久雄・山岸米二郎 (気象庁・電計): 関東地方で雷雨があった日, 1983 年 6 月 10 日, のシミュレーション—19 層, 63.5 km メッシュモデルの地面加熱に対する応答—
127. 瀬上哲秀・住 明正 (気象庁・電計): 衛星の風データ (SATOB) および解析の相違による予報モデル (VFM) への影響
128. 三浦信男 (気象庁・電計): 11 層 25.4 km 格子モデルによる 1983. 12. 25 山陰大雪の予報実験
129. 猪川元興 (気研・予報): 冬期日本海上でみられる筋状積雲と対流混合層の発達の数値シミュレーション
130. 八木正允 (気研・予報): 収束雲中の渦状小じょう乱の解析
131. 八木正允 (気研・予報): 収束雲中の渦状小じょう乱の理論的検討
132. 坂田俊夫 (衛星センター): 安定層が地衡風波動へおよぼす影響について

## 第 2 会場 局地循環 (II)

座長 光 本 茂 記

214. 前野十行 (河原塚中), 大井正一 (家政大): 北アの雲の特徴 (2) 剣・立山
215. 大畑 哲夫 (名大・水圏研), 近藤裕史 (京大・防災研), 榎本浩之 (筑波大・環境科学): 大規模な氷河における氷河風

216. 水間満郎 (京大・原子炉): 泉南地域における海陸風の観測 (IV)
217. 白崎 航一・戸矢 時義・北出 寿江・鈴木 彌幸 (気研・応用) 山地斜面風の観測 (I)
218. 北原隆朗 (筑波大・自然学類), 河村 武 (筑波大・地球科学): 霞ヶ浦の湖風の変質に及ぼす地上建物群の影響
219. 鳥谷 均 (筑波大・地球科学): 長野県菅平で観測した斜面下降風の周期性について
220. 枝川尚資 (京大・防災研): 琵琶湖の湖面上の風について (第2報)
221. 瓜生 道也・守田 治 (九大・理), 山口栄次 (福岡航測), 角田三郎・野中善政 (宮崎大・教育), 阿部信男・楠田 信 (大分高専): 大分市における海陸風の三次元観測
222. 木村竜治 (東大・海洋研), 「内陸域における大気汚染の動態」研究班: 「内陸域における大気汚染の動態」特別観測の概要
223. 谷治正孝 (横浜国大), 内陸域大気汚染観測グループ: 関東平野・上信地域におけるいろいろな局地循環のスケール
224. 渡辺 明 (福島大・教育), 「内陸域における大気汚染の動態」観測班: 内陸域における大気運動の連続, 不連続
225. 田中正昭・枝川尚資 (京大・防災研): 佐久盆地の局地風
226. 中西幹郎・木村竜治 (東大・海洋研), 「内陸域における大気汚染の動態」観測班: アメダスデータの流跡線解析から見た広域拡散 (1983年7月28, 29日)
227. 鶴田治雄 (横浜市公害研), 「内陸域における大気汚染の動態」観測班: 沿岸域から内陸域への大気汚染物質の輸送および変質過程 (I)
228. 光本茂記・植田 洋匡 (国立公害研), 栗田 秀實・内田英夫 (長野県衛公研): 群馬・長野間鉛直断面でのオゾン濃度分布の時間変化
229. 栗田 秀實・佐々木一敏 (長野県衛公研), 植田洋匡・若松伸司 (国立公害研): 弱い傾度風のもとでの大気汚染物質の長距離輸送
230. 栗田 秀實・佐々木一敏・室賀 寿郎 (長野県衛公研), 若松伸司・鶴野伊津志・小川 靖 (国立公害研): 大気汚染物質の長距離輸送と局地風の関係—1982年7月23日の局地風—
231. 名越利幸 (八王子一中): 八王子の局地気象 (1)
- 第3会場 雲物理 (I)
- 座長 播磨屋 敏 生
313. 岩井邦中 (信州大・教): 昇華係数・熱適合係数を考慮した球形氷晶の成長速度
314. 古川義純 (北大・低温研), 山本正樹 (東北大・科研), 黒田登志雄 (北大・低温研): 偏光解析法による氷表面の疑似液体層の研究—厚さの温度依存性と方位依存性について—
315. 黒田登志雄 (北大・低温研): 雪の結晶成長に及ぼす流体力学的効果—濃度境界層および温度境界層の厚みの決定—
316. 松尾 敬世 (気研・物理): 日本付近の雲形・雲量の変動特性について
317. 市村市太郎 (気研・台風): 航空機による海霧の霧粒測定結果について
- 雲物理 (II)
- 座長 石 坂 隆
318. 後町幸雄 (京大・防災研): 降水雲の観測
319. 播磨屋敏生 (北大・理), 飛塚一敏 (北大・環境研), 菊地勝弘・遊馬芳雄 (北大・理), 遠藤辰雄 (北大・低温研): 北海道胆振地方での降雨観測 (その1)—レーダーエコー・雨量強度の水平分布の特徴—
320. 飛塚一敏 (北大・環境研), 播磨屋敏生・菊地勝弘・谷口 恭 (北大・理), 山田知充 (北大・低温研): 北海道胆振地方での降雨観測 (その2) 白老におけるレーダーエコーの垂直分布と雨滴粒径分布
321. 藤吉康志・遠藤辰雄・山田知充 (北大・低温研): 北海道胆振地方での降雨観測 (その3) 森野における垂直レーダー観測と降雨強度の時間変化
322. 赤枝 健治・武田 喬男 (名大・水圏研): 低気圧周辺の雲と降水の観測 (その1) 温暖前線付近の雲頂温度の低い雲の集団について
323. 武田喬男・赤枝健治・堀口光章 (名大・水圏研): 低気圧周辺の雲と降水の観測 (その2) 中層雲における降水形成
324. 堀口 光章・武田 喬男 (名大・水圏研): 低気圧周辺の雲と降水の観測 (その3) レーザ・レーダとミリ波レーダによる層状雲の構造の観測
325. 横山辰夫・石坂 隆・田中 浩 (名大・水圏研): ミリ波レーダの降雨減衰の補正について

326. 武田 喬男・瀬古 勝基 (名大・水圏研): 長時間停滞した対流性エコーの立体的構造
327. 武田 喬男・棚橋 修一 (名大・水圏研): 積乱雲のふるまいに関する数値モデリング
328. 田中豊頭 (気研・物理), 石原正仁(気研・台風): VTR 方式による降雪粒子の連続観測・記録装置
329. 遠藤辰雄・若浜五郎・藤吉康志・山田知充・入川真理・小西啓之 (北大・低温研): 大雪をもたらす降雪雲の事例解析
330. 小西 啓之・若浜 五郎・遠藤 辰雄・藤吉 康志 (北大・低温研): 降雪雲の通過に伴う降雪粒子の粒径と落下速度の変化

## 大会第2日 (5月24日) 9時00分~12時00分

### 第1会場 気候

座長 田 宮 兵 衛

133. 青木 孝 (気研・予報), 吉野 正敏 (筑波大・地球科学): 北太平洋の海面水温による 台風の年間発生数の長期予報
134. 野本真一・千葉 長・矢島 栄三 (気研・予報), 陳進文 (ROC 中央気象局): 台湾における気温および降水量と各循環指数の相関解析
135. 廣瀬元孝 (気象協会・東京): 暖候期における日最高気温の10日予測
136. 川村隆一 (筑波大・大学院): 北太平洋海面水温アノマリーの支配的パターンとその変動について
137. 徳野正己・高橋 幸男 (衛星センター): NOAA-7 AVHRR による地表面温度分布の解析
138. 増田耕一 (東大・理), 西川 敦 (東大・海洋研): 衛星データ利用の展望
139. 田中正之・中村 尚 (東北大・理): 過去 35 年間の北半球 500 mb 高度場の変動特性 I 一夏期 (7月, 8月) 一
140. 田中正之・中村 尚 (東北大・理): 過去 35 年間の北半球 500 mb 高度場の変動特性 II 一冬期 (7月, 8月) 一
141. 田宮兵衛 (気研・予報): 北半球中高緯度対流圏下層平均気温の最近の変化
142. 藤田敏夫 (気研・予報): エル・チチヨン火山の大爆発による成層圏気温の異常昇温
143. 山元龍三郎・Sanga (京大・理・気候): 気候診断における時間フィルターの利用
144. 大和田 道雄・佐藤 友美 (愛知教育大・地理): 名古屋の暑さに関する総観気候学的研究
145. 山本淳之 (大阪電通大), 柏谷健二 (神戸大), 福山 薫 (京大): 琵琶湖底堆積物粒度の永年変化と古気候変動 (序報)
146. 中西 朗 (新潟市立東青山小): 瓢湖の白鳥最高羽数とハバロフスクの初冬寒気団

### 第2会場 局地循環 (III)

座長 藤 部 文 昭

232. 大和田道雄・中村栄一 (愛知教育大・地理): 河川に沿う海陸風と山谷風の相互作用の研究
233. 小泉 隆 (筑波大・環境), 河村 武 (筑波大・地球科学), 田宮兵衛 (気研・予報): 日本の諸都市におけるヒートアイランドの強さの特性—特に気象要因および都市の規模との関係について—
234. 藤部文昭 (新東京航空): 休日の都市気温の特性
235. 白木正規 (気研・予報): 関東平野の風の日変化
236. 笹川忠夫 (川崎市立柿生中): 小谷に形成される逆転層と NO<sub>2</sub> の鉛直濃度分布の関係
237. 吉門 洋 (公害資源研): 播磨地域のオゾン高濃度と海陸風の関係 (2) 海岸部と内陸の差異
238. 吉門 洋・水野建樹 (公害資源研): 播磨地域のオゾン高濃度と海陸風の関係 (1) 濃度レベルの日較差と海風パターン
239. 市川陽一・四方 浩 (勲電力中研): 地形影響を考慮した気流及び排ガス拡散の数値モデル(4) —粘性効果を考慮した擬似ポテンシャル流モデル—
240. 大滝英治 (岡山大・教養), 米谷 俊彦 (岡山大・農生研): 備讃瀬戸地域における大気中の二酸化炭素の濃度変化(1) 日変化と季節変化
241. 大滝英治 (岡山大・教養), 米谷 俊彦 (岡山大・農生研): 備讃瀬戸地域における大気中の二酸化炭素の濃度変化(2) 宇野—高松船上観測
242. 杉浦 茂 (前橋地台): 酸性雨の気象解析
243. 大場 良二・岡林 一木 (三菱重工長崎研): 複雑地形上の排煙拡散数値シミュレーション
244. 北林興二・吉門 洋・近藤裕昭・水野建樹・横山長之 (公資研): 筑波山周辺における気流観測(2)
245. 佐藤 威・近藤純正 (東北大・理), 森 洋介 (宮城教育大): 谷形地形の夜間冷却(1) 気温の冷却率と最低気温分布

246. 安田延壽・近藤純正・成田義浩・田中寿男(東北大・理), 森 洋介(宮城教育大): 谷形地形の夜間冷却(2)——冷却過程と風速分布の特徴

### 第3会場 大気化学・大気電気

座長 小川利紘

331. 鈴木 歎・井上久幸・葛城幸雄・杉村行勇(気研・化学): 日本の地表大気中のクリプトン-85濃度について
332. 土器屋由紀子・葛城幸雄(気研・化学), 小林茂男(芦原中): 小諸および筑波の降水の化学組成
333. 杉村行勇(気研・化学): 日本の大気浮遊塵の平均化学組成について
334. 田中正之・中澤高次・青木周司・大島裕之(東北大・理): 沖縄本部半島における大気中の二酸化炭素濃度の連続観測 I
335. 田中正之・中澤高次・青木周司(東北大・理): 大気中の二酸化炭素濃度の測定 VI CO<sub>2</sub> 濃度の緯度分布
336. 宮田 明・小川利紘(東大・理): 対流圏オゾン

—日本付近での振る舞い

337. 忠鉢 繁(気研・高物): 昭和基地におけるオゾン特別観測(第2報)(地上オゾン濃度観測)
338. 川平浩二(京大・理): オゾン変動における極夜域の役割
339. 近藤 豊・高木増美・森田恭弘・岩田 晃(名大・空電研): 対流圏バックグラウンド NO<sub>x</sub> の測定
340. 近藤 豊・高木増美・岩田 晃(名大・空電研), W.A. Matthews (DSIR, ニュージーランド): 7-32 km 高度の NO 密度の気球観測
341. 関原 疆(東京理大): 磁気嵐に伴う成層圏多原子分子の分解について
342. 高木伸之・竹内利雄・仲野 實・河崎善一郎・仲井猛敏(名大・空電研): 帰還雷撃による発光強度変化のスペクトル解析
343. 竹内利雄・河崎善一郎(名大・空電研), 北川信一郎・舟木数樹(埼玉・工), J. HUSE (EFI ノルウェー): ノルウェーの冬雷

## 大会第3日(5月25日) 9時00分~12時00分

### 第1会場 大循環

座長 北出武夫

147. 増田善信(気研・予報), 大西晴夫(気研・台風): 正二十面体一六角形グリッドを用いた地球上のプリミティブ・モデルの積分(第一報)
148. 岩嶋樹也・山元龍三郎(京大理・気候変動実験施設): 時間-空間スペクトル大気大循環モデル(Ⅲ)
149. 岩崎俊樹・住 明正(気象庁・電計): 気象庁電計室の北半球モデルに対する Envelope Orography の効果
150. 柳野 健・佐藤信夫(気象庁・電計): 有限要素法による全球スペクトルモデルの鉛直離散化 I
151. 時岡 達志・山崎孝治・千葉 長(気研・予報): 1983年初夏の海水温異常(エルニーニョ)の大気に及ぼす影響の数値実験
152. 時岡達志(気研・予報): 1月のモデル大気のみられる長周期変動
153. 渡部文雄(東京管区): 対流圏の長周期変動
154. 平木 哲(気象庁・電計): 全球客観解析にあらわれた赤道上の風南北成分の異常について
155. 塩谷雅人・廣田 勇(京大・理): 成層圏循環に関する南北両半球の比較(2)

156. 伊藤久徳(和歌山大・教育): 冬季の対流圏「定常」プラネタリー波の維持機構
157. 林 祥介・松野太郎(東大・理): 定常ロスビー波の振幅について Ray theory の再考察
158. 楠 昌司(東大・理): 冬期対流圏中のロスビー波の水平伝播
159. 山崎孝治(気研・予報): 南半球成層圏における冬から夏への遷移期の波と平均場の相互作用
160. 池山雅美・武田喬男(名大・水圏研), 松尾敬世(気研・物理): 西太平洋域の雲量の30日変動について

### 第2会場 エクマン境界層

座長 真木太一

247. 熊谷幹郎(東大・工): 成層界面に衝突したブルームによる連行
248. 熊谷幹郎(東大・工): 成層界面での連行フラックスとエネルギー収支
249. 前田絹代・大西外史(防大): 不安定大気中のロール渦について
250. 石田廣史(神戸商船大), 光田 寧(京大・防災研): 大気境界層における中規模対流セル
251. 花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理), 李 鐘範

- (筑波大): 乱流統計量の高度と安定度による変化(8)
252. 横山長之・水野建樹・山本晋(公資研), 鈴木基雄(気協・東京): 晴夜安定層中の乱流と波動の観測
253. 蒲生稔(公害資源研): 混合層の季節変化(その9)
254. 山本晋・蒲生稔・横山長之(公害資源研): 飛行機による湿度および水蒸気輸送量の観測(その2)
255. 横山長之・林正康・山本晋・北林興二・近藤裕昭・水野建樹(公害資源研): 混合層におけるエアロゾルの鉛直濃度分布
256. 岡田芳隆・穂田巖(気研・衛星): 筑波の低層風について
257. 甲斐憲次(筑波大・水理実験センター): 30 m 鉄塔で観測された気象要素の長周期変動(2)—気温変動と地温変動—
258. 李鐘範(筑波大), 花房龍男(気研・物理): ジャンプモデルによる混合層高度の算定
259. 森征洋(香川大・教育): 変動する気圧場に対する大気境界層の応答(II)
260. 楠田信・阿部信男(大分高専): 時間変化する海上風シアーストレスによる海洋エクマン層の流れ
- 第3会場 エアロゾル**
- 座長 森田恭弘
344. 北川信一郎・大矢正徳・松本功(埼玉大・工): エアロゾルと風およびガス汚染との関係(第2報)
345. 岡田菊夫・石坂隆・武田喬男(名大・水圏研): 都市大気中のサブミクロンエアロゾル粒子の二つの典型的な個数粒径分布とその出現に關する過程について
346. 小野晃・大和政彦(名大・水圏研): 海洋大気中の submicron sulfate 粒子—バックグランドエアロゾルについての一つの見方—
347. 小野晃・大和政彦(名大・水圏研): 航空機による成層圏エアロゾル観測(II)—NO<sub>3</sub> 粒子に着目して—
348. 武田喬男・伍培明・岡田菊夫(名大・水圏研): 大気エアロゾル光散乱係数の湿度による変化の測定
349. 村山信彦・木村富士男(気研・応用): 黄砂の長距離輸送
350. 村山信彦・小林隆久(気研・応用): 黄砂によるプラネタリアルベドと散光直達比の増加
351. 小野晃(名大・水圏研): 大気球による成層圏エアロゾルの直接観測
352. 中根英昭・笹野泰弘(国立公害研): レーザーレーザーと光散乱粒子計数器によるエアロゾルの散乱パラメータの測定
353. 林田佐智子・岩坂泰信(名大・水圏研): 成層圏エアロゾル量の長期的変動について—エルチチョン火山噴火後のライダーによる観測
354. 林田佐智子・小林緩樹智・岩坂泰信(名大・水研): 成層圏エアロゾルがオゾン濃度分布に与える影響(IV)
355. 山中大学(宇宙研), 林田佐智子(名大・水圏研): 内部重力波の効果を含む Brewer-Dobson 循環の季節変化が成層圏エアロゾル鉛直輸送に与える影響
356. 広野求和・藤原昇・藤原玄夫(九大・理): 多波長ライダーによる成層圏エアロゾル粒径分布診断(I) 下部境界値推定法
357. 内野修(気研・衛星): 1982年エルチチョン火山噴火雲の北半球での拡散について

### 大会第3日(5月25日) 13時00分~17時00分

#### 第1会場 力学

座長 木村竜治

161. 松田佳久(東京学芸大): 流体系において近似的に対称性低下のある場合の臨界点の構造
162. 高谷美正(気大): 順圧流の線形初期問題に対するグリーン函数の固有函数展開
163. 前田修平・金久博忠(気大): 基本波動と擾乱の弱非線型相互作用について
164. 福山薫(京大・理): 太陽フレアに伴う中層大気上部の変化
165. 田平誠(愛知教育大): 対流圏における長距離音波伝播
166. 山中大学(宇宙研), 田中浩(名大・水圏研), 広沢春任・松坂幸彦・山上隆正・西村純(宇宙研): 大気球搭載ロー放電型電離式風速計による成層圏乱流観測

167. 神沢 博 (極地研): 南極域中層大気における内部重力波の生態
168. 木村竜治 (東大・海洋研): 中規模細胞状対流の実験室モデル
169. 三沢信彦・木村竜治・石川浩治 (東大・海洋研), 新野 宏 (気研・物理): 水平シアー流中に作られた強制渦の変形と移動 (第2報)
170. 酒井 敏 (京大・教養): 流入・流出により駆動される中緯度円型海の定常流
171. 守田 治 (九大・理): 乱流による地衡流渦の生成
172. 田中 浩 (名大・水圏研): プラネタリー波の渦粘性減衰
173. 矢野順一 (京大・理): 強い密度成層と任意の鉛直温度分布を上層でもつ地形回転流体における対流 I. モデルと理論的結果
174. 矢野順一 (京大・理): 強い密度成層と任意の鉛直温度分布を上層をもつ地形回転流体における対流 II. 木星型惑星への適用

#### 応用気象

座長 藤田 敏夫

175. 鈴木栄一 (青山学院大): カルマンフィルターによる稀現象予測と稀現象分布族
176. 丸山美智子: 長崎・島根・河口湖集中豪雨直下型無感地震深さ 0 m に山崩れ
177. 丸山美智子: 天気図の V 型 U 型ポテンシャルと日本海中部地震 (U 型前線帯状雲と天気図)
178. 真鍋大覚・佐藤洋子 (九大・工), 志賀 正信: 圏界面内の気温露点温度差の上下交換現象
179. 真鍋大覚・佐藤洋子 (九大・工), 志賀 正信: 高層の露点温度差から推定される乱気流の風速
180. 真鍋大覚・佐藤洋子 (九大・工), 志賀 正信: 電離層の H/F 及び H/F2 の分離時間と鶏鳴 (その 1 冬と夏)

#### 第2会場 接地境界層

座長 水間 満郎

261. 塚本 修・片岡 毅・光田 寧 (京大・防災研): 大気境界層の乱流の観測的研究(I)—水蒸気輸送過程—
262. 文字信貴・塚本 修・光田 寧 (京大・防災研): 大気境界層の乱流の観測的研究(II)—混合層内乱流変動の鉛直及び水平相関—
263. 片岡 毅・塚本 修・光田 寧 (京大・防災研):

大気境界層の乱流の観測的研究(III)—乱流エネルギー収支—

264. 林 泰一・光田 寧 (京大・防災研): 大気境界層の乱流の観測的研究(IV)—運動量輸送の条件付採集法による解析—
265. 菊地時夫・千葉 修 (高知大・理): 気温の階段状変化について(2)
266. 藤谷徳之助・花房龍男 (気研・物理): 海上風の空間構造(1)
267. 近藤純正・川中敦子 (東北大・理): 粗度が大きな地表面上のエネルギー輸送の研究
268. 林 陽生・成田浩一 (筑波大・地球科学): 風洞用ドラッグ・メータによる摩擦速度の直接測定
269. 米谷 俊彦・瀬尾 琢郎 (岡山大・農生研): 植物群落上の乱流特性について(18)
270. 真木太一 (農環技研): 多列の防風網による乱流特性の変質について
271. 近藤純正・山沢弘実 (東北大・理): 現実的複雑地表面の粗度
272. 森 洋介・小木曾清 (宮城教育大): 傾斜地の樹林内での夜間冷却 (予備調査)
273. 播磨屋敏生・真木雅之・菊地勝弘・谷口 恭 (北大・理), 平松 親・東根 聡 (北大・環境研): 盆地における冷却過程(V)
274. 真木 雅之・播磨屋敏生・菊地勝弘 (北大・理): 盆地における冷却過程(VI)
275. 大場良二・中村 茂 (三菱重工長崎研): 安定時排煙拡散可視化風洞実験
276. 加藤真規子 (気研・物理): 複雑な地形における拡散実験 (風洞実験)
277. 加藤真規子・花房龍男 (気研・物理): 乱流統計量に及ぼす地形の影響 (風洞実験)
278. 榊原保志 (目黒二中): 室温の数値実験—鉄筋コンクリート建てマンションの場合
279. 半田 隆・川越邦雄・森田昌宏 (東理大・火災科研), 長谷見雄二 (建築研), 吉川友章 (気研・応用), 真重順次・城 智子 (CRC): 室内火災の数値シミュレーション
280. 半田 隆・川越邦雄・須川修身・水野智之 (東理大・火災科研), 吉川友章 (気研・応用), 渡辺好弘・関 弥平・有沢雄三 (気協・東京): 室内火災の検証実験

## 第3会場 放射

座長 嘉納宗靖

358. 佐藤隆夫 (長崎大): 斜面の日照時間(1)
359. 佐藤隆夫 (長崎大): 斜面の日照時間(2)
360. 廣野幹彦 (新潟大・工): ランダム・モデルを用いた  $N_2O$  の吸収量の計算
361. 小林隆久・村山信彦 (気研・応用): 方位角依存場での Discrete-Ordinate 法による放射伝達計算の精度
362. 田中正之・中澤 高清・深堀 正志 (東北大・理): 高圧下に於ける二酸化炭素の吸収特性(Ⅲ)
363. 深堀正志・中澤 高清・田中正之 (東北大・理): 高圧下に於ける一酸化二窒素の吸収特性(Ⅰ)
364. 斎藤 定 (名大・水圏研), 古濱洋治・井原俊夫・真鍋武嗣 (電波研), 田中 浩・小野 晃 (名大・水圏研): ミリ波の水蒸気異常吸収と dimer
365. 山内 恭 (極地研): 南極カタバ風帯の地表面放射収支に対する地吹雪の影響
366. 荒生公雄・島本美奈子・松本弘子 (長崎大・教育): 山本の混濁係数  $\beta$  とエルチチョン火山噴火
367. 田中正之・中島 映至・塩原 匡貴 (東北大・理), 三宅行美・中西裕治・笹本和敏 (英弘精機産業): 航空機搭載用オーレオメーターの開発
368. 田中正之・中島 映至・塩原 匡貴 (東北大・理): オーレオメーターによる大気混濁度の観測
369. 浅野 正二・関根 正幸・忠鉢 繁・小林 正治 (気研・高物): 航空機によるエアロゾルの放射特性の測定
370. 田中正之・中島 映至・早坂 忠裕 (東北大・理): 航空機による太陽放射の分光観測とエアロゾルの光学的特性
371. 久保田効: 地球放射収支の海陸による差異について
372. 高山陽三・高島 勉 (気研・衛星): 衛星データによる森林火災の煙の量的観測
373. 井上豊志郎 (気研・台風): 衛星二チャンネル ( $11 \mu m$ ,  $12 \mu m$ ) データによる絹雲の射出率および雲頂温度の算定
374. 竹内義明 (京大・理・気候): 太陽光散乱に対する雲の形状の影響—Super imposed Sinusoidal Model の提案—
375. 田中正之・石川 重年・中島 映至 (東北大・理), 明石秀平 (衛星センター): 気象衛星「ひまわり」のデータを用いた雲の放射特性の研究 (アルビードの太陽天頂角依存性とその地域的特徴)